

平成21年度野幌プロジェクトフォローアップ委員会 (現地視察)

平成21年11月10日(火) 13:00~16:00
野幌国有林41林班ほか

1 開 会 (ふれあい交流館)

2 計画部長挨拶

3 新委員の紹介

4 日程等説明

5 現地視察

① 視察地1

- ・ ニセアカシア伐採予定箇所
- ・ 41林班：再生活動箇所

② 視察地2

- ・ 41林班：半処理区

③ 視察地3

- ・ 42林班：再生活動箇所

(休憩 15:05~15:15)

4 意見交換 (ふれあい交流館)

5 閉 会 (ふれあい交流館)

野幌プロジェクトフォローアップ委員会出席者名簿

(平成 21 年 11 月 10 日)

○委員

- 五十嵐 恒夫 (北海道大学名誉教授)
五十嵐 敏文 (フォーラム野幌の森 代表)
岩田 勝 (江別市野幌自治会 会長)
岡崎 朱美 (環境カウンセラー 市民部門)
角館 盛雄 (北の森21運動の会 会長)
佐々木 利宏 (江別市立野幌小学校 校長)
高橋 孝也 (江別市役所環境課長)
高橋 邦秀 (北海道大学名誉教授)
橋場 一行 (日本樹木医会北海道支部長)
宮本 英樹 (NPO 法人 ねおす 専務理事)
村野 紀雄 (酪農学園大学特任教授)

○北海道森林管理局

- 安樂 勝彦 (計画部長)
宮崎 英伸 (指導普及課長)
岡本 雅人 (企画官(自然再生))
瀬戸口 満 (石狩森林管理署長)
志鎌 睦 (石狩地域森林環境保全ふれあいセンター所長)

ほか

○オブザーバー

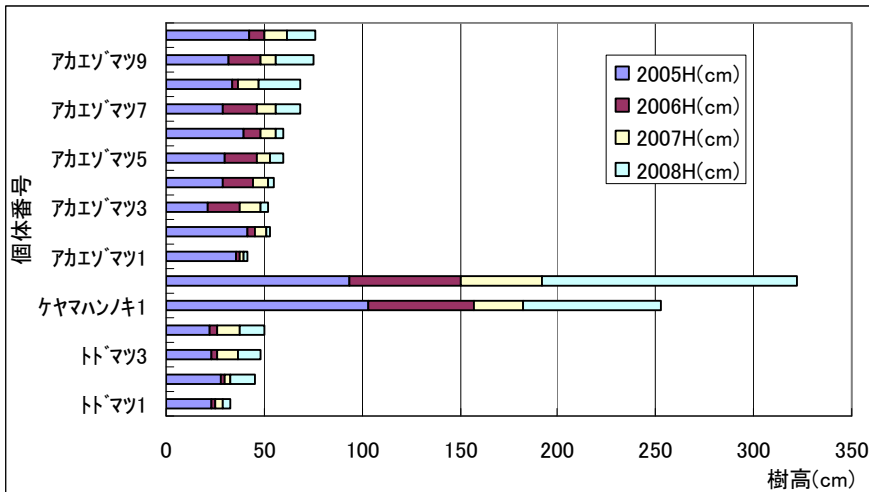
- 平間 由美子 (北海道空知森づくりセンター主幹)
清野 実 (北海道自然環境課野幌森林公園分室主幹)

視察地1：41 林班ほ、ほ2，ほ4小班 再生活動箇所

(北の森 21 運動の会)

トマツ、アカエゾマツ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ植栽

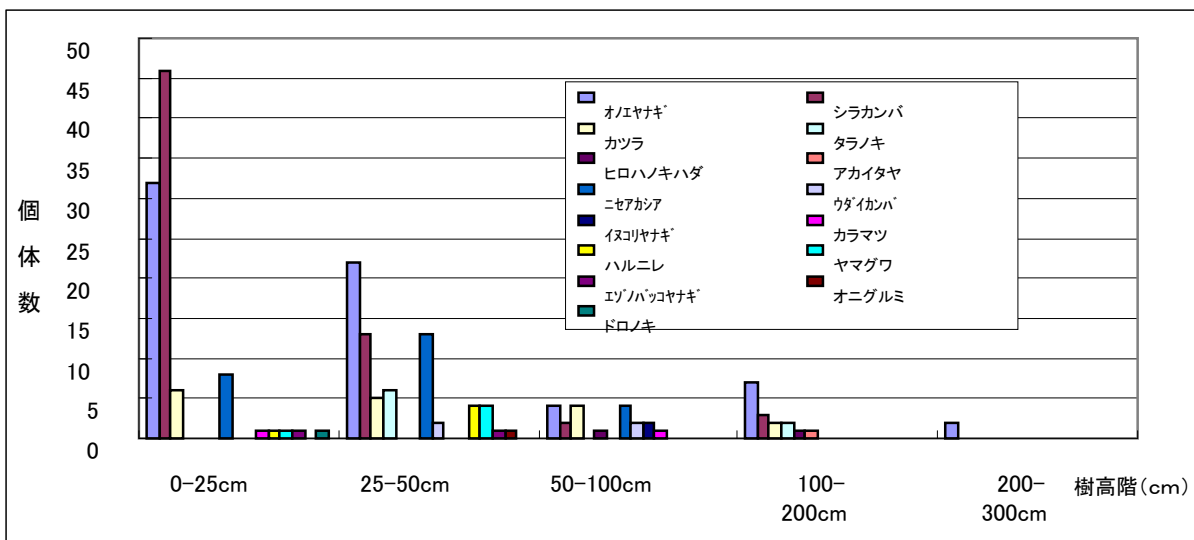
○ 植栽木の状況



平成21年夏の状況

- ・ 植栽木の成長は順調 (ケヤマハンノキでは 3 m を超える個体も見られた)
- ・ 昨年度と比較しても成長は良好

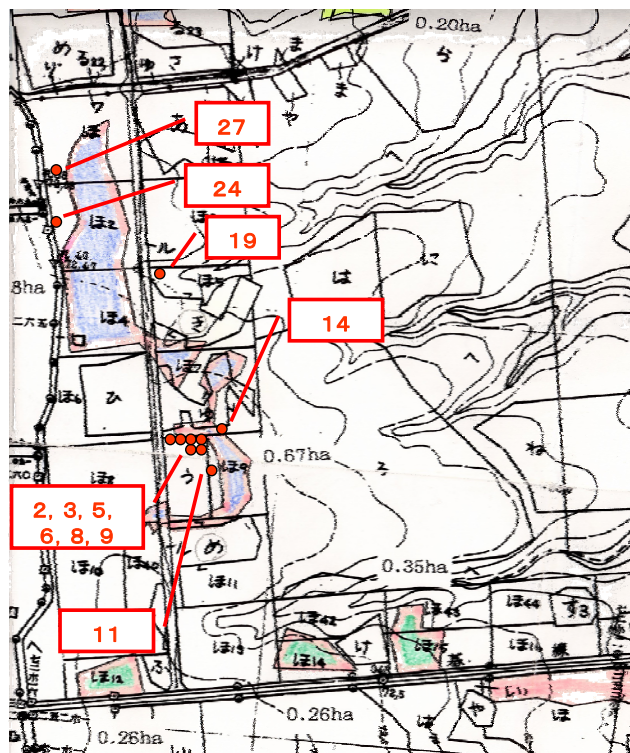
○ 天然更新の様子



- ・ 天然更新の樹種はオノエヤナギ、シラカンバが大部分を占める。
- ・ カツラ、ハルニレ、ウダイカンバ、ヒロハノキハダ、アカイタヤ、オニグルミなど多様な樹種が見られる。

○ ニセアカシアの母樹について

| 調査番号 | 林小班 | | 直径 | 樹高 | 材積 | 予想される支障木 |
|------|-----|----|----|----|------|----------------------|
| 2 | 41 | う | 44 | 21 | 1.40 | ヤチダモ 1 |
| 3 | " | " | 32 | 16 | 0.57 | オヒヨウ 1 シラカバ 1 |
| 5 | " | " | 26 | 18 | 0.44 | ハルニレ 2 |
| 6 | " | " | 38 | 16 | 0.79 | ハルニレ 7 |
| 8 | " | " | 34 | 20 | 0.82 | スキ 3 ハルニレ 2 |
| 9 | " | " | 54 | 22 | 2.15 | エゾマツ 1 ミズキ 1 |
| 11 | 41 | ほ9 | 28 | 19 | 0.54 | ハルニレ 1 スキ 1 |
| 14 | " | ほ7 | 28 | 16 | 0.44 | トマツ 1 |
| 19 | " | ほ5 | 44 | 21 | 1.40 | |
| 24 | " | ほ | 22 | 16 | 0.28 | |
| 27 | " | " | 38 | 21 | 1.07 | オヒヨウ、イヤ、ミズキ、ヤチダモ 各1本 |

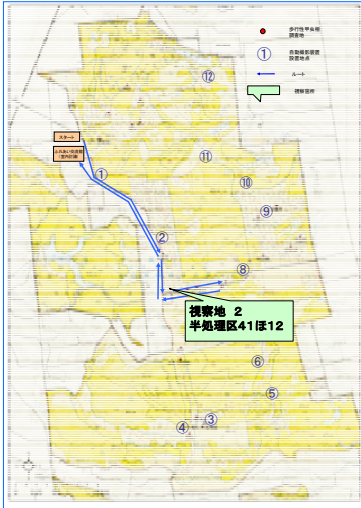


調査番号

● ニセアカシア母樹

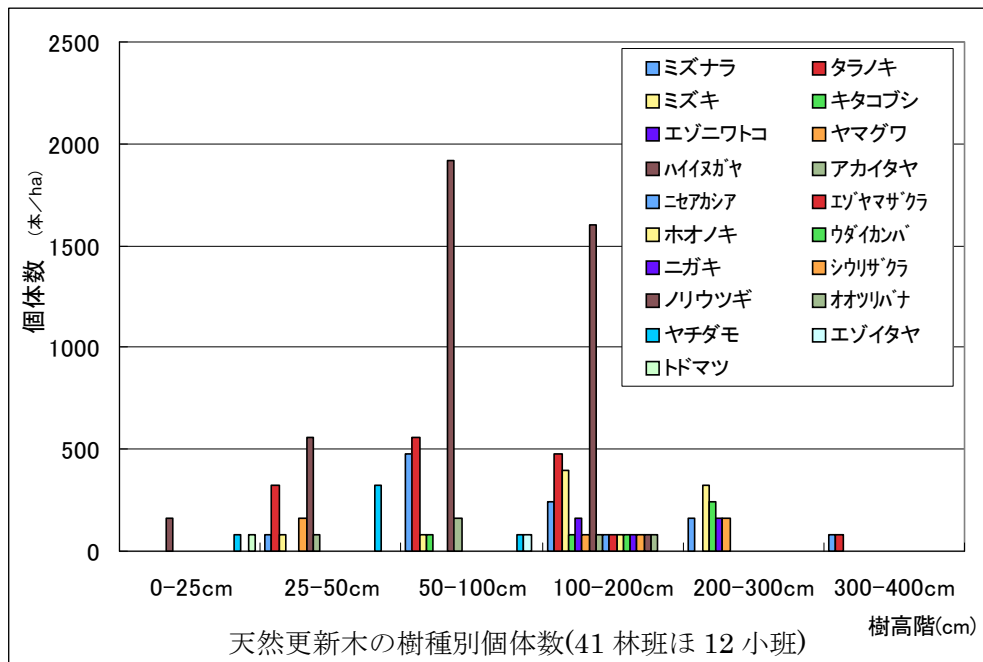
視察地2：41林班ほ12小班 半処理区

風倒木整理後非処理区（風倒木を搬出済み・植栽はせず）



平成19年秋の状況

《森林相調査 天然更新木の樹種別個体数》

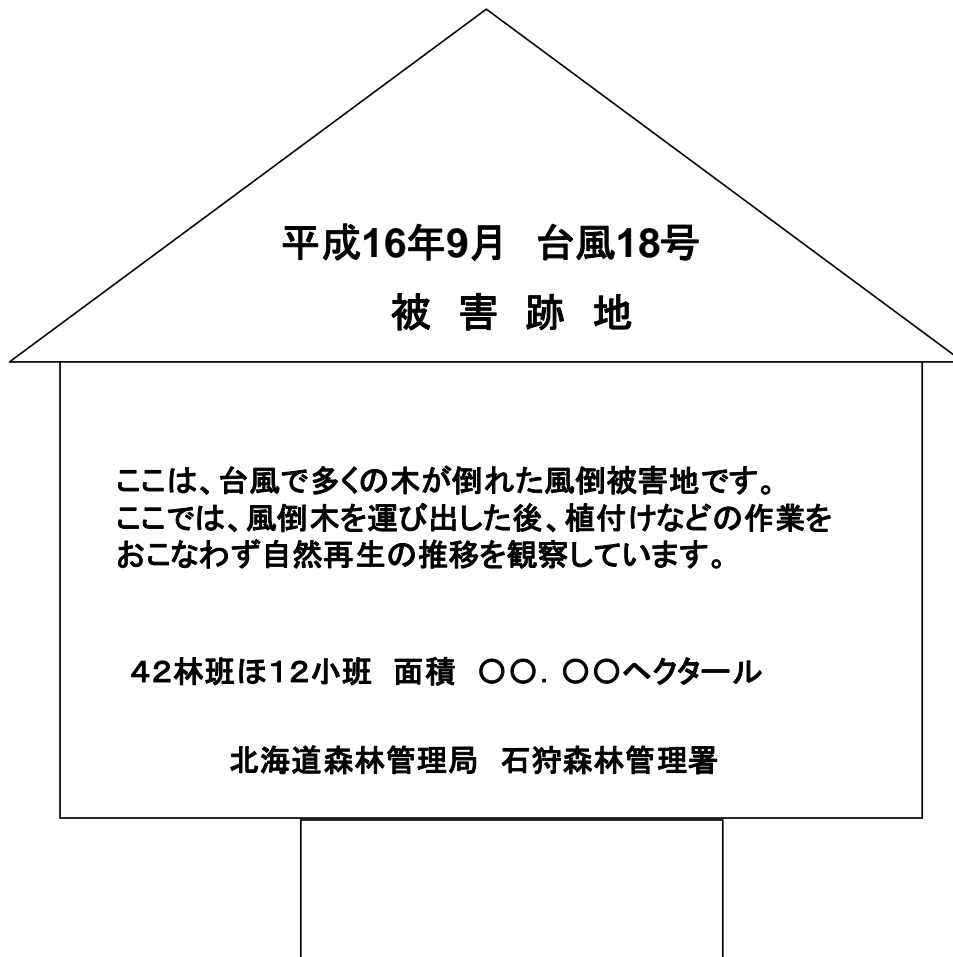


・平成18年度調査 ニセアカシアが1600本/haあった。
 ・平成19年度調査 新たな定着個体（25cm以下）は見られなかった。
 ササの被度が70%以上のプロットが見られた。

・平成20年度調査 **高木種の定着が見られた。**
 ササ類の被覆には急激な拡大は見られない。

⇒今後、高木種の新たな定着が進むものと思われる。（H20年度報告書より）

風倒被害箇所 半処理区の看板(案)



完成イメージ

サイズ:縦56cm
横46cm

視察地3：42林班ほ小班 再生活動箇所

(みんなで森林づくり 2005 植栽箇所)

トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、イタヤ、モミジ、コブシ植栽



平成21年夏の状況

○ 植栽木の成長状況

調査対象木の平均樹高

(単位：cm)

| | トドマツ | エゾマツ | アカエゾ | ミズナラ | ハルニレ | ヤチダモ | イタヤ | モミジ | コブシ |
|-------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|
| 平成18年 | 35 | 78 | 48 | 53 | 72 | 77 | 70 | 53 | 63 |
| 平成19年 | 59 | 95 | 58 | 69 | 114 | 105 | 99 | 76 | 79 |
| 平成20年 | 80 | 125 | 80 | 102 | 143 | 127 | 134 | 66 | 82 |
| 平成21年 | 105 | 159 | 112 | 148 | 183 | 183 | 131 | 98 | 109 |

- ・ 植栽木の成長は順調、広葉樹の成長が旺盛。
- ・ 昨年度と比較しても成長は概ね良好、トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツの成長が安定してきた。
- ・ 植栽木にウギ等の食害が見られた。

○ 再生活動地の苗木について



キタコブシ



タムシバ

風倒被害地の回復段階について

◆森林の再生が進む中で考えられる状況（植栽区の場合）

参考：野幌自然環境モニタリング調査方針（H18）

第1段階（台風直後の状況）

| 項目 | 状況 | イメージ |
|-------------|--|------|
| 風倒被害箇所の森林植生 | 筋状に地拵えが行われ、植栽されている。周囲の残存林分には、天然更新による稚幼樹及び下層植生がみられる。 | |
| 歩行性甲虫相 | 風倒被害箇所において開放性の昆虫が数・種数ともに多くみられる。林内には、森林性の歩行性甲虫が優占する。 | |
| 菌類相 | 風倒被害箇所においては、倒木から発生する木材腐朽菌がみられる。林内と風倒被害箇所における菌類相には大きな違いがみられる。 | |

第2段階

| 項目 | 想定される状況 | イメージ |
|-------------|--|------|
| 風倒被害箇所の森林植生 | 残存林分などから種子が散布され、多くの天然更新稚樹が林床にみられるようになる。植栽木が十分活着し、樹高成長が旺盛となり、地床を被覆する。 | |
| 歩行性甲虫相 | 開放性昆虫の割合が減少し、森林性の歩行性甲虫の割合が増加する。 | |
| 菌類相 | 林内で見られる菌類相が、風倒被害箇所にまばらにみられるようになるが、風倒木から発生する子実体が依然として多くみられる。 | |

第3段階

| 項目 | 想定される状況 | イメージ |
|-------------|---|------|
| 風倒被害箇所の森林植生 | 風倒被害箇所全体で天然更新稚樹が多くみられ、樹高数mに達する活発な成長がみられる。植栽木はある程度間引かれた状態になるが、樹種によっては樹高1.3mを超える。 | |
| 歩行性甲虫相 | 開放性の昆虫類は数・種数共に減少し、森林性の歩行性甲虫の組成が、風倒被害箇所と良好な自然林との間で差がなくなる。 | |
| 菌類相 | 風倒木から発生する子実体が減少する。林内でみられる子実体が風倒被害箇所でもみられるようになる。 | |